

日中対照言語学会会報 (No.25)

2014年2月24日(月)発行 会報担当: 高橋弥守彦 豊嶋裕子

目次

1. 日中対照言語学会第30回大会(2013年度冬季大会)報告
2. 日中対照言語学会拡大常務理事会審議結果(2013年12月15日、2014年2月15日)
3. 常務理事・理事の推薦について
4. 2014年2月定例会報告

※ 事務局より

1. 日中対照言語学会第30回大会(2013年度冬季大会)報告

日中対照言語学会第30回大会(2013年度冬季大会)のご報告

本学会では、下記の要領にて2013年度冬季大会を開催いたしました。本大会はモダリティの特集大会であり、日本語学と英語学の各モダリティの専門家益岡隆志先生(神戸市外国語大学)と澤田治美先生(関西外国語大学)をお招きし、たくさんの会員の皆様のご出席をいただきました。各発表者の発表は日ごろの研究成果を踏まえた充実したものであり、時間が足りないほどの活発な質疑応答がありました。

記

日時: 2013年12月15日(日) 午前9時00分より午後5時30分まで

会場: 大阪産業大学梅田サテライト(JR大阪駅南口下車、阪神百貨店右の通りを直進、徒歩約5分、大阪駅前第三ビル19階。大阪市北区梅田1-1-3。電話 06-6442-5522)

参加費: 1000円(会員、非会員共通)

プログラム

受付(9:00-) 総合司会 安本真弓(高千穂大学)

大会開催挨拶 張黎(大阪産業大学) 9:20-9:30

開会の辞 余維(関西外国語大学) 9:30-9:40

研究発表1. 日本語の「てもいい」と中国語の“可以”

王 其莉(西南学院大学言語教育センター) 9:40-10:15

研究発表2. 「べきだ」と「なければならない」 10:15-10:50

ーバ節との共起から見た両者の差異を中心にー王慈敏(千葉大学人文社会科学研究科)

以上司会 彭飛(京都外国語大学)

休憩(15分: 10:50-11:05)

研究発表3. 否定の働きかけの日中対照研究 11:05-11:40

王慶(九州外国語学院・専任講師)

研究発表4. とりたてて詞と中国語表現 11:40-12:15

藤田昌志(三重大学)

以上司会 于康(関西学院大学)

昼休み (60分 ビルの階下に食堂街あり) 12:15-13:15

講演 1 日本語の意味階層構造に関わるいくつかの話題 13:15-14:15

益岡隆志 (神戸市外国語大学) 司会 下地早智子 (神戸市外国語大学)

講演 2 英語におけるモダリティの分類と否定の作用域をめぐって: 日英比較の観点から

14:15-15:15

澤田治美 (関西外国語大学) 司会 余維 (関西外国語大学)

休憩 (20分: 15:15-15:35)

研究発表 5. “呢”の時間性と語気性について 15:35-16:10

王学群 (東洋大学)

研究発表 6. モダリティ表現の語順 16:10-16:45

高橋弥守彦 (大東文化大学) 以上司会 続三義 (東洋大学)

閉会の辞 豊嶋裕子 (東海大学) 16:45-17:00

※入会申し込み、学会開催当日に学会費の納入も受け付けます。(年会費: 社会人 4000 円、院生 2000 円)

2. 日中対照言語学会拡大常務理事会審議結果 (2回)

i. 2013年12月15日(日)12時15分~13時15分 於 大阪産業大学梅田サテライト会議室

出席者: 高橋弥守彦、豊嶋裕子、余維、張黎、王学群、彭飛、下地早智子、于康、続三義、椿正美、竹島毅、山口直人、安本真弓

議題:

(1) 次期理事長候補について

本大会における拡大理事会では、東洋大学の続三義先生を次期理事長候補として推薦した。これにより、5月大会の総会での承認を経て、5月より新執行部が成立する予定である。なお、続三義先生より、次期理事長を担当するにあたっては、現在更新の遅れている本学会のホームページの運営を正常化することが不可欠であるとの条件が再度提示された。

(2) 2014年度日中対照言語学会春季大会について

日中対照言語学会第31回大会(2014年度春季大会)は大東文化大学で行うことが決定された。詳細は以下のとおりである。

1) 日時: 2014年5月下旬

2) 会場: 大東文化会館

3) その他の詳細については、次回以降の拡大常務理事会に諮る。

(3) 学会誌第16号と特集号について

現在13本の投稿があり、例年通り査読によって選考する。編集委員長・査読委員長を選出し、査読手順を確認。発行部数は250部とする。出版費は20万円。ただし、特集号の出版

費用は従来通り 10 万円であることの確認があった。

(4) 中国支部との連絡

8 月 3 日 (土) 拡大理事会での決定事項に基づき、10 月以降、中国支部の今年度の会員が確定して日本への送金が行われた後に、中国支部へ学会誌を送付する。これに基づき学会誌 60 部余りの送付がおこなわれたとの報告があった。

(5) その他

本学会のホームページ (HP) の運営について、提案があり合意を得た。

ii. 2014 年 2 月 15 日 (土) 17 時 00 分～18 時 30 分 於 大東文化会館 k-403

出席者：高橋弥守彦、王学群、続三義、椿正美

議題

(1) 2014 年度春季大会について

以下のことが大会開催校より報告された。

1) 日時：2014 年 5 月 25 日 (土) 午前 9 時より午後 5 時 30 分まで

2) 会場：大東文化会館ホール

3) 春季大会の発表希望締め切り：3 月 31 日 (月)

(2) 学会誌と特集号について

学会誌は査読が進んでいることの報告と特集号の原稿募集 (原稿は 12 月 31 日 [水] 締切) を行うことが決定された。

(3) 本学会執行部について

新執行部選出の手続きに沿って、2013 年 12 月冬季大会拡大常務理事会で推薦された理事長が 2 名の副理事長 (関東・関西各 1 名) を選出し、理事長はと副理事長とが協議のうえ、常務理事を推薦することが確認された。

3. 常務理事・理事の推薦について

関西地区の于康理事が常務理事に推選され 5 月大会時の総会に提案することとなった。関西地区では常務理事・理事がまだ若干少ないので、現在の執行部の方々に関西地区の理事や会員に引き続き呼びかけて増やす方向で働きかけてもらうこととする。

4. 2014 年度 1, 2 月定例月例会報告

(1) 2014 年 1 月例会

日時：2014 年 1 月 11 日 (土) 18:00～20:00

場所：大東文化会館 K-402

氏名:陳雨薇 所属:上海外国語大学 yizhijuzi@i.softbank.jp

発表テーマ:コーパスに基づく日本語における使役文の他動性に関する一考察

要旨： 日本語の自他性がヴォイスとは構文的にも意味的にも密接に関わっている。本研究はコーパスによるデータ分析に基づき、各使役文の構文要素や意味上の連続性の角度から使役文と他動性との関係について考察し、各使役文の帯びる他動性の度合いを論じてみる。日本語における使役文を「直接使役文」「間接使役文 1」(被使役者の意志を無視する場合)「間接使役文 2」(被使役者の意志を尊重する場合)「許可使役文」「放任使役文」「原因使役文」という 6 種類に分類し、分析を行った結果、他動性を伴う使役文は「直接使役文」「間接使役文 1」「間接使役文 2」にあたることが分かる。さらに、考察により、各使役文の他動性の度合いに連続性が見え、一番強く他動性を伴う「直接使役文」は使役文全体の大半を占めていることが明らかになる。そのため、使役文はよく無対自動詞に対応する他動詞文の穴埋めになり、あるいは意味的に不完全な他動詞文を補う役割を果たしていると考えられる。

(2) 2014 年 2 月例会

1. 日時：2012 年 2 月 15 日 (土) 18:30~20:00
2. 場所：大東文化会館 k-403
3. ひと：高橋弥守彦 (大東文化大学)
4. 題名：能願動詞“要”の語順と意味について

言葉の世界は現実の世界を反映する。一つの現実は、一般に主体と出来事とに分かれ、言葉の世界の静態単位である単語と連語とで言語化する。心的態度を表す中国語のモダリティは、一般には能願動詞と語気助詞とに分かれる。本発表では、このうちの能願動詞“要”の語順と意味について検討した。

質疑応答：

能願動詞“要”の意味については再検討するよという助言が 2 名の会員からあった。論文の出典を明確にするよという提案が 1 名の会員からあった。

(以上文責 高橋弥守彦)

事務局より

- 1) 学会の入会は、日中対照言語学会ホームページ上で随時受け付けています。ただし、申し込みができない場合は王学群事務局長 (Lwn365@yahoo.co.jp)、または竹島毅理事 (sisi@crest.ocn.ne.jp) までご連絡をください。年間会費は社会人 4000 円、院生 2000 円となっています。皆さんの入会を歓迎いたします。
- 2) 毎月の例会の開催は、郵送ではなく、メールにてご連絡させて頂いております。不明の方がいらっしゃいますので、ぜひお知らせいただきたくお願い申し上げます。また、メール変更につきましても、同様にお願い申し上げます。
- 3) 年間会費の納入について
2013 年度の大会開催時に年間会費の納入を受け付けております。また、都合により出席されない会員に対しては次号の会報から請求書を送付させていただきますので、ご納入のほどよろしくお願いいたします。